

# 文豪・森鷗外の魅力 再発見しよう

小説「舞姫」などで知られる文豪、森鷗外（1862〜1922年）の没後100年に合わせ、鷗外が後半生を過ごした文京区ではさまざまな記念事業が行われている。事業は年間を通じて行われ、

## 没後100年 ゆかりの地、文京区で記念事業

鷗外と文京区のかかわりは深い。鷗外は、現在の島根県津和野町に生まれ、明治5年に父親とともに上京。その後、ドイツ留学などを経て、25年に、現在の文京区千駄木に居を構えた。鷗外は自宅を「觀潮樓」と名づけ、大正11年7月に死去するまで30年間をそこで暮らした。

文京区では「青年」「雁」といった作品を発表。鷗外は自らの生活を小説に描くことが多く、作品には、無縁坂や団子坂など文京区の地名や場所が登場する。

鷗外の自宅跡地には、区立森鷗外記念館が建てられている。樋口一葉や夏目漱石も文京区で暮らし、単一の記念館としてあるのは鷗外のみで、区の担当者は「区の重要な人物と考えている」と話す。

区は、没後100年となる今年、講演会や記念館での特別展示など40以上の事業を実施する。鷗外を図案化したフラッグ（街路灯な

どに付ける小旗）や、「森鷗外 いいかも」「鷗外を歩く。」「本が、文京の道しるべ。」「といった3種類の記念ポスターも制作した。ポスターは区内の図書館や博物館などに掲示され、フラッグは区内の計24の商店街に設置。ポスターなどのデザインは区内にある都立工芸高の生徒が担当した。



文京区千駄木の区立森鷗外記念館の近くを運行するラッピングバス（同区提供）

## 講演会やラッピングバス、スタンプラリーも

区は、記念館での展示以外に、各種イベントの開催、フラッグやポスターの飾り付けなどで街全体を盛り上げ、鷗外に改めて光を当てている。区の担当者は「詳しい人にはもっと詳しく、鷗外を知らない人には、まず知ってほしい。そして一人でも多くの人に好きになってほしい」と話した。



記念館の近くを通るコミュニティバス1台も没後100年を記念したデザインにラッピングされている。

商店街に飾られた森鷗外没後100年のフラッグ | 文京区



東京総局  
〒100-8077  
東京都千代田区  
大手町1-7-2  
電話 03-3275-8747  
FAX 03-5255-6634  
shuto@sankei.co.jp  
広告 03-3275-8663

購読申し込み・  
配達・集金  
0120-34-4646  
紙面・記事  
0570-046460

Web  
https://www.sankei.com/region/

（12日）  
旧5月14日  
《赤口》

月齢	12.6
日出	4:25
日入	18:57
月出	16:27
月入	2:16
満潮	2:16
干潮	16:05
干潮	9:16
大潮	21:31

（東京）